

請願第18号

日本政府に核兵器禁止条約の交渉会議に参加し、条約実現に真剣に努力するよう求める意見書提出に関する請願

1 要 旨

核兵器のない世界を実現するために、昨年12月、第71回国連総会の全体会で、核兵器禁止条約について交渉する国連の会議を招集することの決議（「多国間核軍縮撤廃交渉の前進」）が多数（賛成113、反対35、棄権13）で採択された。それを受けた第1会期の交渉会議は、今年3月27日から30日に国連本部で開かれた。

これは核兵器禁止条約の実現に向けた歴史的な動きである。禁止条約が採択されれば、国連決議に従って、9月からの次回総会に報告されるとともに、それぞれの国の政府による調印と議会による批准・発効の手順が展望される。

ところが、日本政府は反対票を投ずるだけでなく、交渉会議の初日（3月27日）に、高見澤軍縮大使が禁止条約の交渉に反対し、参加拒否を宣言し退席するという態度をとった。国際社会での合意にも、「核兵器のない世界」を求める国民・被爆者の願いにも、国際世論にも反するものである。

核兵器の廃絶は、人類の生存にかかわる緊急・死活の課題であり、「各国の軍備からの原子兵器、大量破壊兵器の一扫」を決めた国連第1号決議からも、国際紛争の解決に武力の行使や武力による威嚇を禁じた日本国憲法に照らしても、さらには、人類で唯一国民が被爆の体験を持つ国の政府としても当然、日本政府が支持し、積極的に推進すべきものである。

日本政府は、このような態度を直ちに改め、6月15日から始まる第2会期の交渉会議に参加し、核兵器禁止・廃絶を提起し、そのための条約実現に真剣に努力するよう求める意見書を速やかに提出するよう請願する。

2 提 出 者

原水爆禁止国民平和大行進・世界大会福井県実行委員会

代表委員 平澤 孝

代表委員 松川 徹

代表委員 山岡 直文

代表委員 山川知一郎

3 紹 介 議 員

佐藤正雄

4 受 理 年 月 日

平成29年6月7日